

国際協力関連

2016年に開始した JICA(日本国際協力機構)の草の根技術協力プロジェクトは 2019 年 5 月に無事終了した。その後の持続発展と経過観察のためネパールへ行く予定であったが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症パンデミックのため 2 回のみの渡航となった。モザンビークでのアイキャンプの計画も延期となった。私の不在中、皆様に多大なご迷惑をおかけしたことを深謝するとともに、暖かいご支援に感謝いたします。

ネパール 1 月 (徳島大学予算)

1 月 14 日 (火) 夕方、徳島から羽田へ移動
1 月 15 日 (水) 羽田～バンコク～カトマンズ
1 月 16 日 (木) カトマンズからポカラへ移動、ヒマラヤ眼科病院で診療
1 月 17 日 (金) ヒマラヤ眼科病院で診療
1 月 18 日 (土) ポカラからカトマンズへ移動
1 月 19 日 (日) トリブバン大学医学部附属病院眼科で診療
1 月 20 日 (月) トリブバン大学医学部附属病院眼科で診療
1 月 21 日 (火) 午前：日本大使館表敬訪問、午後：トリブバン大学医学部附属病院眼科で診療
1 月 22 日 (水) 帰国の途に就く
1 月 23 日 (木) 帰国

ネパール 2 月 (徳島大学予算)

2 月 25 日 (火) 夕方、徳島から羽田へ移動
2 月 26 日 (水) 羽田～バンコク～カトマンズ
2 月 27 日 (木) カトマンズからビルガンジへ移動、ケディア眼科病院訪問
2 月 28 日 (金) ビルガンジからゴールへ移動、ゴール眼科病院訪問
2 月 29 日 (土) ゴールからカトマンズへ移動
3 月 1 日 (日) トリブバン大学医学部附属病院眼科で診療および講演
3 月 2 日 (月) トリブバン大学医学部附属病院眼科で診療および講演
3 月 3 日 (火) トリブバン大学医学部附属病院眼科で診療
3 月 4 日 (水) 帰国の途に就く
3 月 5 日 (木) 帰国

2020 年ネパール活動概略

2016 年から 3 年間行った JICA 草の根技術協力プロジェクト「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト (通称 RECON プロジェクト)」は、皆様方のご支援により無事完了した。その後の持続発展のためトリブバン大学附属病院眼科で網膜硝子体フェローシップを立ち上げ、順調に研修が進んでいる。既に 2 名の研修終了者を送り出し、継続的に研修が行われている。このフェローシップは徳島大学で研修したネパール人眼科医が指導者として活躍している。このため出来る限り指導のためネパールに渡航することにしていたがコロナ禍のため 2 回の渡航のみで後の計画は延期となった。

1 月の渡航では、まずポカラのヒマラヤ眼科病院で技術指導を行い、山岳部の診療体制強化に関して話し合った。また、山岳部でのアイキャンプを計画した。カトマンズでは網膜硝子体フェローシップの技術指導を行った。現地の眼科医の硝子体手術のレベルは格段に向上している。彼ら独自で自立発展できているので頼もしい。技術指導の合間に日本大使館を訪問しカトマンズ近郊の眼科病院の援助をしてくれるように大使にお願いした。この甲斐あってか、後に約 1 千万円の資金援助がされることになった。1 月 22 日に帰国の途に就いたが、トランジットのバンコクの国際空港は春節前の中国人旅行者で溢れていた。後で知ったことだが、1 月 22 日のバンコクの国際空港に集まった中国人旅行者は数万に上り、その数は世界で一番であった。バンコクから彼らは世界に飛んでいったが、翌日の 1 月 23 日に中国は海外渡航を禁止した。幸い私の健康状態に特別の変化はなかったが、一時不安になった。

2 月に再びネパールへ渡航したが四宮加容先生が同行して下さった。私は眼科の先生方に「ネパールへ行かないか!？」と常々誘っている。最低限の旅費は私の予算でカバーできると誘ってもなかなかネパールへは一緒に行ってくれない。四宮先生にとってネパールは初めてなのでネパールでの滞在を楽しんでいたきたいと思って計画した。カトマンズ到着翌日にインド国境の町のビルガンジへ行き、ケディア眼科病院を訪問した。



(ケディア眼科病院で歓迎のお花を頂きました。)

ケディア眼科病院は 20 年前から支援しているので顔なじみである。また、徳島で研修した Dr. Chunu Shrestha が院長となって活躍している。



(ケディア眼科病院の小児眼科部門を視察中の四宮先生)

翌日にはゴールへ移動しゴール眼科病院を訪問した。私はゴール眼科病院の建設当時から関わってきているのでよく訪れている。今までたくさんの医局員に来て頂いたので、四宮先生にも是非来て頂きたいと思った。ゴール眼科病院は最終的にはベッド数 100 床の病院となり、経営も黒字転換した時点でネパール人だけで経営するようになった。ゴール眼科病院を訪れ発展した様子を見るのはうれしいことである。



(ゴール眼科病院での記念撮影)

ゴールからカトマンズへ帰ってからはトリブバン大学附属病院眼科で診療技術支援を行った。四宮先生にはロービジョンと未熟児網膜症に関する2回講演して頂いた。講演はネパールでも関心の高まりつつある内容であったので大変良かった。



(講演中の四宮先生)

無事予定された日程を終了して帰国したが、1月の渡航時と違い、中国人旅行者がいないためバンコクの空港は静かであった。

その後、新型コロナウイルス感染症に関してWHOがパンデミックを宣言し、航空便は激減した。また、私が使っていたタイ航空も倒産した。今後の国際協力はかなり困難な状況となった。

2020年モザンビーク眼科医療支援（アイキャンプ）報告

本来なら2020年のモザンビークアイキャンプも2019年と同様に6月23日から7月2日の旅行日程でモザンビーク南部のシャイシャイで行う予定であった。しかし新型コロナウイルス感染症パンデミックのためアイキャンプは延期となった。航空券も購入し全ての準備が終了してからの決定であった。以下時系列で経過を報告する。

- ・ 2020年1月10日に段ボール箱17箱、そして1月28日に追加の1箱、合計18箱の医療物資を徳島大学病院郵便局から船便でモザンビークの首都マプトに向けて発送した。以後荷物の追跡システムで追跡不可能となった。
- ・ 3月11日、WHOが新型コロナウイルス感染症パンデミック宣言。4月に航空券をキャンセル
- ・ 6月24日、現地から首都マプトの郵便局に荷物が届いたとの連絡があった。
- ・ 7月30日、モザンビーク保健省の担当者が荷物を通関し引き取った。
- ・ 8月17日、ベイラ在住の現地コーディネーターの自宅に全ての荷物が到着した。

本来なら約4カ月で現地に荷物が届くはずであったが、新型コロナウイルス・パンデミックのため大幅に遅延した。途中、荷物の追跡システムで追跡できず心配したが無事現地に到着した。現在、今後の活動に関して情報を収集しつつ検討中である。



(2020年1月10日、医療物資発送)



(2020年8月17日、現地に届いた医療物資)



(現地での医療物資保管用の棚の作成)



(現地で保管されている医療物資)

現在、国際協力はかなり困難な状況となっているが。新型コロナウイルス感染症の終息を願い、また国際協力が再開できることを祈っている。